令和４年度　東京都内湾水生生物調査　５月稚魚調査　速報

●実施状況

令和４年５月２日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温は 15.8～18.6℃、調査地点は東寄りの風 2.0～3.5m であった。調査当日は大潮で、干潮は 11 時 49 分、満潮は 18 時 15 分であった（気象庁のデータ）。

全調査地点においてビリンゴが多く出現した。また、お台場海浜公園と葛西人工渚においてはアユが確認された。

水生生物調査実施中！

稚魚調査中は、写真ののぼりを掲げています。
見かけた方は、お気軽にお声がけください。

葛西人工渚での調査風景 →

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:11-10:27	10:56-12:23	13:10-14:57
水温(℃)	17.1	17.8	17.0
塩分(-)	22.7	11.9	3.0
透視度(cm)	＞100	72	32
DO(mg/L)	6.2	5.7	8.7
DO飽和度(%)	73.3	64.8	91.3
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.7	7.0	7.6
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	下げ潮時に調査を行った。大型連休中のため周辺には多くの観光客がみられた。	下げ潮から干潮にかけて調査を行った。干潟は干出していた。	上げ潮時に調査を行った。

●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種（多い順注）	ビリンゴ(G)	ビリンゴ(m)	ビリンゴ(G)
	マハゼ(m)	ニクハゼ(m)	マハゼ(m)
	ニクハゼ(m)	スズキ(c)	ウキゴリ属(m)
	ボラ(c)	ウキゴリ属(c)	ボラ(c)
	アユ(c)	エドハゼ(c)	エドハゼ(c)
魚類以外	エビジャコ属(c)	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(G)
		エビジャコ(c)	シラタエビ(+)
			エビジャコ(+)
備考	他にチチブ属が採集された。	他にボラ、アシシロハゼ、ヒメハゼが採集された。	他にアシシロハゼ、アユが採集された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園　採取試料

昨年度までのオリンピックの関連工事終了に伴い、令和元年 10 月以前の地点に戻して調査を実施した。

●主な出現種等　※写真のスケール 1 目盛:1mm

淡水の影響を受ける干潟に多い。仔稚魚は早春に干潟に出現する。産卵は冬から早春にかけて、アナジャコなどの甲殻類の巣穴で行う。

東京湾を代表するハゼの仲間。河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、冬になると産卵のため深場へ移動する。

東京湾内湾に多く生息する海水魚で、稚魚は春から夏にかけて干潟で成長する。ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

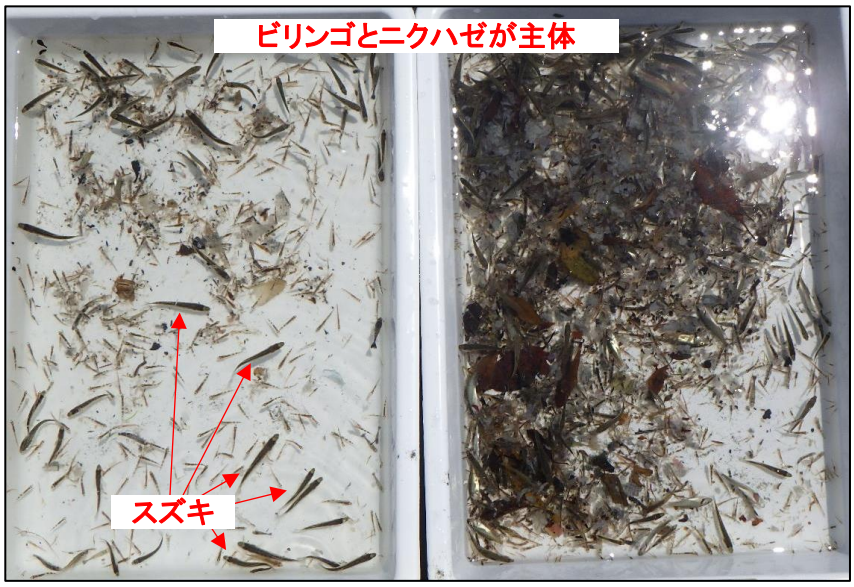
河川で孵化した後、仔魚は海へ下り、やや成長すると再び河川に遡上する両側回遊魚。東京湾では、多摩川や荒川周辺で多く見られる。海では沿岸域に滞在し、主に動物プランクトンを食べて、体長 4cm 程になるまで成長する。

チチブ属の浮遊仔魚は東京湾の干潟域、人工海浜、砂浜海岸にて 6～9 月に大量に出現する。雑食性で、湾奥から外湾にかけての河口域や潟湖などに生息し、泥底から砂泥底にある転石や牡蠣殻の間や下などにみられる。

【調査対象外】

周辺で稚貝が採集された。
潮干狩りで盛んに獲られる代表的な二枚貝。殻長は 4cm になる卵型。殻の模様は生息場所などによって変化する。東京湾のものは形が細くて、模様のコントラストが強いものが多い。

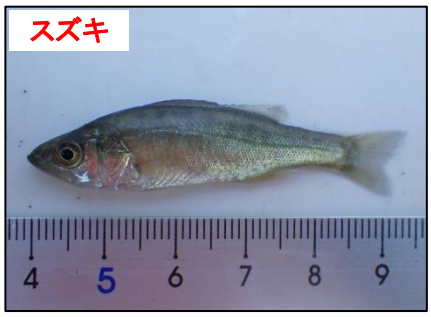
城南大橋　採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等　※写真のスケール 1 目盛:1mm

東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂するやや静穏な海域で見られることが多い。体長 2cm 程になるまでは、体色が肉色をしており、名の由来となっている。



湾奥から外湾にかけての干潟域や人工海浜、埋立地などの様々な場所でみられる。成長に伴って生息場所を変え、孵化した仔魚は浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾においては、ハゼ科稚魚や甲殻類などを食べて急速に成長する。

全長 9cm 程になる。内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は 5 月から 9 月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。

河川で孵化した仔魚は海へ下り干潟で成長するが、その後は川を目指して遡上する両側回遊魚。主として河川の中流域から河口域に生息する。水草の間などの中層に浮遊する。肉食性で、水生昆虫やエビ類、仔稚魚を捕食する。

口が大きく、口の後端は目の後端を越える。本種は成長すると、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用することが知られている。そのため、成長した個体は小型地曳網で採集されにくくなる。主に小型甲殻類を捕食する。

内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに獰猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている。

葛西人工渚　採取試料

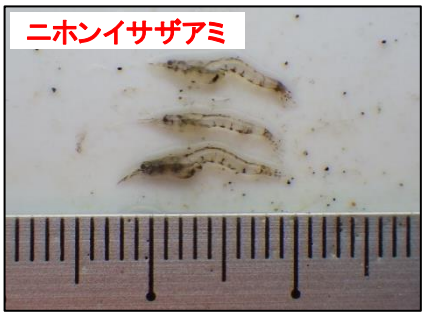
東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール 1 目盛:1mm

＊解説はお台場海浜公園を参照。本種はハゼ類の中でも、遊泳性が強い傾向にある。そのため、口は下向きではなく上向きに開いている。エドハゼやニクハゼに似るが、本種はややずんぐりした体型をしており、顔も丸みを帯びている。

＊解説はお台場海浜公園を参照。

マハゼに似るが、本種の鱗は粗く、体側にゴマ模様がある点で識別できる。成熟した個体は、体側に白い横縞が現れる。内湾や河口域の水深 1m 前後の砂泥底で確認される。



汽水域に生息するアミの仲間（エビの仲間ではない）。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。内湾や河口などの汽水域の干潟でみられる。

触角が青いことが特徴のエビ。額角の基部が盛り上がることで、スジエビ類と区別ができる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

【調査対象外】

殻長 5cm 程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息し、バカガイと似た分布域であるが、やや内湾よりの浅瀬に多くなる。殻の色は、白色から紫褐色まで変異が多い。